

若者意識調査の結果について

1 調査対象者と回答方法

19歳～39歳の市民を対象として実施
調査協力依頼状を郵送し、WEBにて回答

2 調査スケジュール

7月 1日 調査協力依頼状を調査対象者に送付
7月16日 調査票回答期限

3 調査回答率

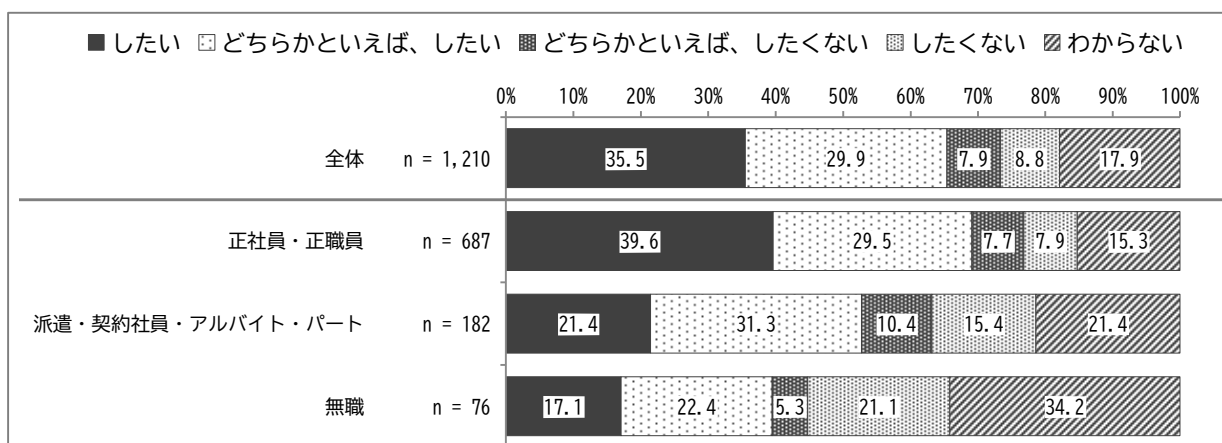
配付数	回収数	有効回収数 (※)	有効回収率
7,942	2,129	2,029	25.5%

※ 有効回収数は、全設問のうち半数以上の回答があったものとした

4 調査結果の概要

(1) 結婚観

- ・職業別にみると、結婚を希望する人の割合は、正社員・正職員は高く、派遣・契約社員・アルバイト・パート、無職は低くなっています。就労状況が、結婚に対する考えに影響を与えていることがうかがえます。
- ・長岡市の結婚支援に対する満足度は、「わからない」が最も多くなっており、まずは、結婚支援内容の周知が必要です。
- ・出会いや結婚支援に有効と思う施策の回答では、「民間主催の出会いの場・婚活イベント」が28.4%、「行政主催の出会いの場・婚活イベント」が25.5%と対面でのイベントへのニーズがあります。そのほか、「結婚に伴う費用補助」が62.5%という結果となり、結婚に伴う費用に負担を感じている若者が多いことが示されています。

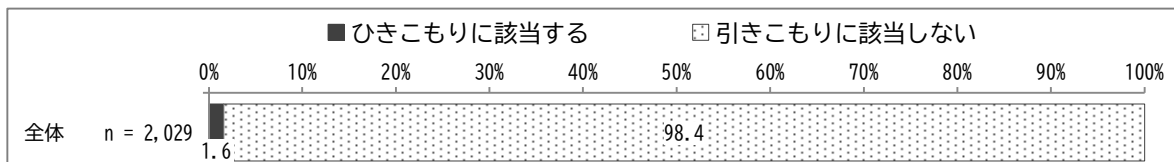


(2) 子育てに対する考え

- ・現在のこどもの人数と将来持ちたいこどもの人数を比較すると、現在のこどもの人数が将来持ちたいこどもの人数と同数以上の人(=こどもの人数について希望を叶えられた人)は49.8%となっています。
- ・子どもを持つことを望まない人もおり、子どもを持つことを望まない理由として、「お金がかかると思うから」「子どもを育てる自信がないから」「自分や夫婦の自由な時間がなくなると思うから」などがあげられています。
- ・多種多様な子育て支援があることを伝え、安心感を得られるように努めていくことが必要です。

(3) 外出頻度

- ・普段の外出頻度、現在の外出頻度になってからの期間、現在の外出頻度になったきっかけの回答からひきこもりに該当するかを判定した結果、「ひきこもりに該当する」が1.6%、「ひきこもりに該当しない」が98.4%となっています。



(4) ヤングケアラー

- ・お世話をしている家族の有無について、「いる」もしくは「今はいないが、過去にいた」と回答した人は5.2%となっています。中高生が回答したニーズ調査、保護者が回答した生活実態調査においても同様の設問を設けており、それぞれの結果は10.8%、5.3%です。

(5) 自分に対する想い、将来に対する考え

- ・内閣府が令和4年に実施した「子ども・若者の意識と生活に関する調査」と比較をします。
- ・自分らしさがあると思うかにおいて、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の回答の合計が80.0%に対して、国は84.2%となっています。
- ・今の自分が好きだについては、長岡市が61.3%に対して、国は60.0%となっており、国と同様の結果が得られました。

